

付録2.4 ユーザ・網インタフェースにおける信号長制限

ユーザ間情報通知サービスと他サービスを組み合わせた場合には、網の信号転送能力の制限（局間信号長超過）により、“ユーザ・ユーザ”情報要素が網により破棄される場合があります。したがって、発側ユーザ・網インタフェース上の「呼設定」メッセージ内の情報要素を、正常手順において、確実に、着信ユーザに届けるためには、発信ユーザが設定する信号長（L）を調整する必要があります。

“ユーザ・ユーザ”情報要素が破棄される可能性のある各種サービスとそれらサービス毎に局間において付加される信号に関連する信号長を以下に示します。

- ①国際接続の場合
9 オクテット
- ②中継系他事業者接続の場合
13 オクテット
- ③384、1536 kbit/s 非制限デジタルモードで発信した場合
7 オクテット
- ④衛星加入者から発信または衛星加入者へ着信する場合
(64 kbit/s 非制限デジタルモード、音声/3.1 kHz オーディオモード)
16 オクテット
- ⑤衛星加入者から発信または衛星加入者へ着信する場合
(384、1536 kbit/s 非制限デジタルモード)
62 オクテット
- ⑥ダイヤルQ² [サービス提供終了]接続の場合
5 オクテット (注)
- ⑦通信中発信呼の場合
5 オクテット (注)
- ⑧グループセキュリティサービス契約者の場合
14 オクテット (注)
- ⑨ファクシミリ通信網接続の場合
17 オクテット (注)

(注) ⑥、⑦、⑧、⑨のサービスが重なった場合には、それぞれを合計した値となります。

これら①から⑨までのサービスの組み合わせにより、関連する信号長を足し合わせた計算値をXとします。

また、「呼設定」メッセージに設定する以下の情報要素の長さの合計（情報要素名と長さフィールドを含む）をLとします。ただし、“着番号”（または“キーパッドファシリティ”）情報要素に関しては、

$3 + \lceil \text{番号ディジット数} \div 2 \rceil *$ として下さい。

* : ここで $\lceil \quad \rceil$ は小数点以下を切り上げた整数とします。

$$L = \text{『伝達能力』} + \text{『経過識別子』} + \text{『着番号』} \text{（または『キーボードファシリティ』）}$$
$$+ \text{『発サブアドレス』} + \text{『着サブアドレス』} + \text{『低位レイヤ整合性』} + \text{『高位レイヤ整合性』}$$
$$+ \text{『ユーザ・ユーザ』}$$

（『 』は情報要素長）

本計算値Lと前記Xが以下の関係となる場合、“ユーザ・ユーザ”情報要素が破棄される場合があります。ただし、その場合においても呼接続処理を継続します（注1）。

$$L > 235 \text{（注2）} - X$$

（注1） 発信ユーザには、発側交換機で“ユーザ・ユーザ”情報要素が破棄される場合の通知は、「状態表示」メッセージ内の“理由表示（#43：アクセス情報破棄）”で行われますが、それ以外の理由で破棄される場合には、通知されません。

（注2） 今後、各種サービス等の追加によっても制限値は現在の値（235オクテット）より小さく変更されます。